

ジーニアス英和辞典 第5版

南出康世 編集主幹

B6 変型判・
2,496頁
本体3,500円＋税

[評者]
布川裕行



思わぬ発見満載の地道な大改訂

新しい辞書を手にしたら、装丁や見易さを確かめながら、まず relevant という単語を引くことにしている。「重要な」という意味が載っているかどうか調べるためだ。『ジーニアス英和辞典 第5版』(G5) の場合、装丁も定義も合格だ。外見はキープコンセプトながらGのロゴがお洒落、厚さもレイアウトも5,000語、200ページ以上増えたのを全く感じさせない。件の語義については、英和には珍しくG2にはすでに「(実際の) 価値 [重要性] を持つ」が採用されて現在に至っている。

さて、今回の改訂でG5は実は大きく改良されている。そもそも学習英和には十分な受容語彙とともに、発表語彙を深く掘り下げ、大学入試に耐える語法的、文法的、語用論的な情報が必須となるが、その点、G5では高校学習語4,300語の8割方で語義や語法の見直しが行われているように思われる。まず、actually では語義が2つから4つに増え、よりびったりとした訳が可能となった。few の語法は2つに分割され、よりきめ細かでわかりやすくなった。反対に fish and chips の語法では余計な部分がばっさり切り捨てられた。文法面では different than

や「現在完了と just now」などにさらに一步踏み込んでいる。さらに「should＋原形」と仮定法現在についての解説も英語史に基づき正確に記述されている。以上、ほんの1例だ。

今回私が最も注目したのは新設された「コロケーション＋」だが、中でも information が圧巻だ。idea, grade, call, problem など、並のコロケーション辞典顔負けの内容となっている。他に、特筆すべき点では、大文字の But の使用に関する語用論的情報が私にとっては新しかった。

発音情報は従来からジーニアスの独壇場であったが、G5もそのDNAをしっかり引き継いでいる。often をはじめ、either, neither などの解説では、英語は生きていることがまざまざと実感できる。

教室では、まず教師が辞書をよく使い込んで、そこで得た思わぬ発見 (serendipity) の数々を生徒に伝えてあげたいと思う。検索性を重視するなら、やがて出るであろう電子版を待つことになるが、一覧性など紙の辞書の良さは捨てがたい魅力だ。10万項目もある辞書は高校初学者には無理だという向きもあるが、収録語の少ない辞書は、現時点では深く掘り下げるべき発表語彙の情報もまた大きく割愛されていて、大学受験を前提とするならお勧めはできない。

コアとなる高校レベルの語に真摯に地道な検討が加えられ、これまで以上に serendipity に満ちた辞書に仕上がった G5は、授業や研究で大いに活躍するはずである。心からお勧めしたい。

(ぬのかわ ひろゆき・

山形大学ほか非常勤講師)

英語教師のための コーパス活用ガイド

赤野一郎・堀 正広・

投野由紀夫
編著

A5判・256頁
本体2,000円＋税

[評者]
日臺滋之



優れた実践的コーパス活用指南書

本書はコーパスを授業に活用できるアイディア満載の書です。

基礎編では、コーパスを扱う際によく耳にするコンコーダンサーや、KWIC といった用語について丁寧に解説されています。コーパスから得られるコロケーション(語と語の相性) 情報を用いることで生徒に類義語の意味の違いを説明する方法は参考になります。

実践編1：汎用コーパスでは、Corpus of Contemporary American English (COCA) の検索方法がわかりやすく述べられています。例えば「動詞の experience と名詞のコロケーションを検索する場合」、つまり、experience の名詞ではなく動詞、それも変化形 experiences, experienced などを含めて調べる、また experience の「後ろ〇語まで」に来る「名詞」を調べるためにはどう設定すればよいか丁寧に記されています。さらに、ワイルドカード(*)を用いて、LIST モードで、What で始まる感嘆文をはじめ、9項目の文法項目を検索する入力方法も示されており重宝します。

COCA 以外にも、BNCweb を利用した British National Corpus (BNC) の検索方法が述べられており大変参考になります。

実践編2：学習者コーパスのJEFL Corpusでは、生徒が英語で表現できなかった語句に[JP]タグが付与されており、生徒がどのような語句を表現できなかったかがわかり興味深いものです。

実践編3：自作コーパスでは、中学の検定教科書を用いたAntConcのコンコーダ機能、共起語、単語連鎖の調べ方、単語リストの作り方、また新旧の教科書を比較し特徴語リストを作成する方法も示されており役立ちます。

AntWordProfilerによる教材作成では、テキスト内の単語をGeneral Service Listの語、Academic Word Listの語、それ以外の語と色分けし、難しい単語を、類義語辞書機能で易しい単語に書き換える操作が示されています。これは、リーディング教材や試験問題の作成で難語を書き換えて読みやすくするのに便利です。

実践編4：英作文指導でのコーパス活用では、Googleの検索でフレーズ検索、OR検索、アスタリスク検索等を工夫し、生徒に課した英作文の添削を効果的に行う実例が示されています。また、英作文指導でAntConcのn-gram機能を使うことで、繰り返し使用される表現を特定し、別の表現に置き換える例も示されています。

発展編では、ワードの文章校正のオプションにある「読みやすさの評価」を活用し、学校で使用している教科書の英文が、他の教科書や入試問題で使用されている英文とどの程度、難易度が違うのか比較する術も示されています。

本書の実例はすぐさま授業や研究に役立ちます。是非お試しあれ。

(ひだい しげゆき・玉川大学教授)

ゴーストを訪ねる ロンドンの旅

平井杏子 著

A5判・224頁
本体2,300円＋税

[評者]
井内雄四郎



ロンドンのゴーストを探り、 英国史の本質に迫る必読の一冊

ロンドンに来てすぐに気づくのは、この風格のある古都の各所に現われる多くのゴーストたちの存在だろう。

本書は全8章から成立し、ウェストミンスターから郊外のウィンザー城に至るロンドンの各地に出現するゴーストたちが的確でテンポの速い才筆によって語られていき、挿入された沢山の写真や図版とあいまって、実に楽しい貴重なロンドン案内となっている。

まずは大晦日の夜、大勢の観客を前にウェストミンスター橋からテムズ河に飛びこんで皆を驚かせる、かの有名な十九世紀の切り裂きジャックのゴーストをはじめとして、傍らの国会議事堂に現われる国事犯ガイ・フォークス、ホワイトホルのチャーチル元首相、ロンドン塔ではエリザベス一世のかつての寵臣サー・ウォルター・ローリー、自らの切り落とされた首を抱えて歩くヘンリー八世の二番目の妃アン・ブーリン…と多くのゴーストが紹介され、最後に郊外のウィンザー城で目撃されるエリザベス一世の威厳にみちた姿が登場して、本書はその多彩な幕を降ろす。

しかしここに登場するのは何も

国王やその妃、貴族、著名な政治家のゴーストだけではない。例えば、かつて食肉市場のあったスミスフィールド付近には、十六世紀カトリックのメアリー一世によって火あぶりにされた数百人のプロテスタントの唸き声が風に乗って聞こえてくるというからすさまじい。人間ばかりでなく黒犬のゴーストさえ現われるというのだから、さながら英国の歴史の血なまぐさい暗黒部を目撃するようなものだろう。

ところがふしぎなことに、ここに登場する多くのゴーストの中には、ヘンリー八世の妃たちのように随分現世での非道な仕打ちに恨みをもって死んでいった人物たちもいたはずだが、意外なことにここには我国の怪談に感じられるような恨みや怨念がさして感じられず、むしろ彼らに対する英国人全般のなつかしさや親しみさえ感じられるのはなぜだろう。また今日に至るまで、これほど多彩なゴースト伝説が脈々と英国で語り継がれ、英国史の中で独自の地位を占めているのはなぜだろう。

この問いに著者は3つの理由を挙げている。即ち、今なお古い時代の遺構が残る英国ではゴースト出現の絶好の舞台が保存されていること、2つ目は英国人の歴史に対する深い愛情、最後に彼らの深いユーモア感覚とその寛容な心である。

英国の歴史と文化をこよなく愛する著者ならではの鋭い見解であり、「ゴースト」というきわめて特異な視点から英国史の深部に迫る好著として、ぜひ大勢の人々に読んでほしい注目の一冊である。

(いのうち ゆうしろう・

早稲田大学名誉教授)